

住宅再建アンケート（速報版）

1. 調査の目的

- 被災者の住宅再建に関する意向を把握することにより、復興まちづくり基本計画検討の基礎資料とする。

2. 調査方法

- 被災した鵜住居、釜石東部、平田、唐丹地域の 8,324 世帯を母集団として、標本数（棄却域 5%）を求め、無作為抽出した仮設住宅を対象に、世帯主に対する面接調査を行う。

地域名	世帯数	サンプル数 (対世帯数)	調査数 (対世帯数)	備考 人口 (H23.3.31)
鵜住居地域	2,605	117	188	6,391
釜石東部地域	3,301	148	109	6,839
平田地域	1,528	69	50	3,820
唐丹地域	800	36	43	2,085
市外	-	-	12	-
合計	8,234	370	402	19,135

3. 調査期間等

- 平成 23 年 7 月 12 日～21 日にかけて実施し、402 の回答を得ることができた。



4. 調査結果の概要

4.1 回答者の属性

- ・回答者の属性を見ると、世帯人数は3人以下の世帯が62.9%を占めている。
- ・世帯主の年齢は60才以上の世帯が76.7%を占めている。
- ・これらのことから、高齢単身世帯あるいは高齢夫婦世帯が多く存在すると読み取れる。
- ・また、世帯主が無職の世帯が58.1%あり、厳しい生活環境を強いられているものと推察される。
- ・さらに、要介護・要支援者が同居している世帯が12.8%あり、これらの災害弱者への対応として、災害に強い都市構造への抜本的転換は最重要課題に浮かび上がる。

4.2 被災者の住宅形態

- ・被災前の住宅形態をみると、専用住宅が85.1%と最も多く、借地を含めた持ち家世帯が88.6%を占めている。このことから、今回の津波で生活基盤を根こそぎ浚われたものと読み取れる。
- ・回答者の属性を踏まえると、高齢少数世帯が限られた収入で生活できていたのは、持ち家という生活基盤がの所有があったためと推測できる。住宅という高齢者にとって最も大切な生活基盤を津波に浚われた今、一刻も早い住宅の再建は、この地で生きていくために必ず克服しなければならない課題といえる。

4.3 希望する住宅再建場所

- ・厳しい生活環境におかれていることもあり、希望する住宅再建場所の条件として「わからない」と回答する世帯が30.5%と最も多くなっている。
- ・一方で、「被災前と同じ場所(22.8%)」と「被災前の近くの高台(28.5%)」を合わせた51.3%と、「市内内陸部に移転(9.7%)」と「市外に移転(3.2%)」を合わせた12.9%を比較すると、住み慣れた地域内の安全な高台で住宅再建したいものと推察される。
- ・なお、住宅再建場所を決めるうえで重視する環境条件として、「買い物や医療など生活環境(41.5%)」が「防災面の安全・安心の確保(21.0%)」を上回っていることから、復興まちづくり計画の検討にあたっては、超高齢社会を念頭に、できる限り都市機能や生活関連公共施設をコンパクトに集約したまちづくりが必要となる。

4.4 住宅再建の方法

- ・住宅再建の方法をしてみると、回答者の多くは高齢者ということもあり、「わからない(34.7%)」が最も多くなっている。
- ・また、高齢で収入が限られていることもあり、「公営住宅に入居(21.9%)」を希望する自力再建が困難な世帯がある一方、「自分の土地で建替え(16.3%)」を希望する自力再建可能な世帯への配慮も欠かせない。

4.5 概括

- ・アンケート結果を概括すると、住み慣れた地域内の高台を基本に、自力再建困難世帯向けの公営住宅を一定数確保するとともに、自力再建可能世帯向けの住宅地を適切に配置する。その上で都市機能をコンパクトに集約し買い物や医療に便利な生活環境を整備する。そして災害弱者でも安全に確実に避難できる対策を講じる必要があるといえる。



5. 次回調査に向けた課題

- ・今回のサンプル調査では、釜石市内全体としてほぼ同様の傾向になっている。今後、計画の規模算定に必要な基礎データを得るため、被災者全数調査により詳細に意向を把握する必要がある。
- ・また、今回の調査では「わからない」との回答が多かった。これは、復興まちづくり計画が骨子の段階であることから、回答者が将来を判断するだけの情報が乏しかったものと推察される。
- ・次回調査では、具体的な計画を踏まえた上で調査を行う必要がある。

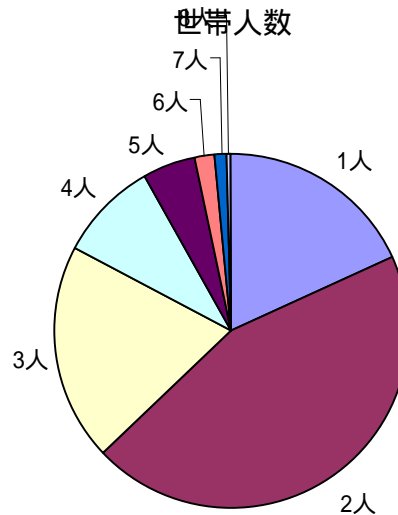


6. アンケート集計結果

Q1 現在（被災後）の家族構成を教えてください。

(1) 世帯人数

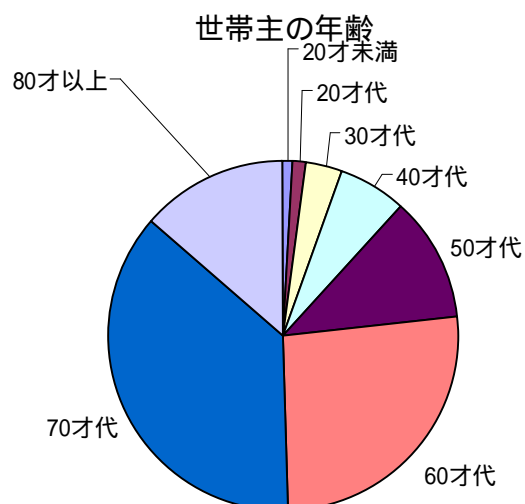
世帯人数	世帯数	割合
1人	74	18.3%
2人	180	44.6%
3人	80	19.8%
4人	38	9.4%
5人	19	4.7%
6人	7	1.7%
7人	5	1.2%
8人	1	0.2%
合計	404	100.0%



・世帯人数を見ると、2人世帯（44.6%）、3人世帯（19.8%）、1人世帯（18.3%）と続き、2人以下の世帯が62.9%を占めている。

(2) 世帯主の年齢

世帯主の年齢	人数	割合
20才未満	3	0.7%
20才代	6	1.5%
30才代	13	3.2%
40才代	26	6.5%
50才代	46	11.4%
60才代	105	26.1%
70才代	149	37.0%
80才以上	55	13.6%
合計	403	100.0%

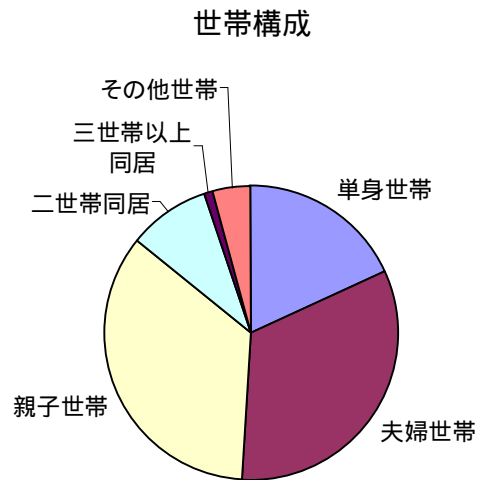


・世帯主の年齢を見ると、70才代（37.0%）、60才代（26.1%）、80才代（13.6%）と続き、世帯主が60才以上の世帯は76.7%を占めている。



(3) 世帯構成

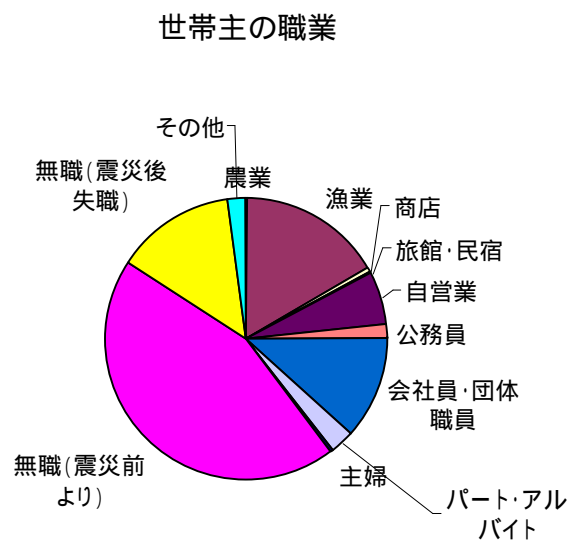
世帯構成	世帯数	割合
単身世帯	73	18.3%
夫婦世帯	130	32.5%
親子世帯	140	35.0%
二世帯同居	37	9.3%
三世帯以上同居	3	0.8%
その他世帯	17	4.3%
合計	400	100.0%



- ・世帯構成を見ると、親と子どものいる世帯（35.0%）、夫婦のみの世帯（32.5%）、単身世帯（18.3%）と続き、85.8%を占めている。

(4) 世帯主の職業

世帯主の職業	世帯数	割合
農業	1	0.3%
漁業	65	16.5%
商店	2	0.5%
旅館・民宿	1	0.3%
自営業	23	5.8%
公務員	6	1.5%
会社員・団体職員	46	11.7%
パート・アルバイト	11	2.8%
主婦	2	0.5%
無職(震災前より)	175	44.4%
無職(震災後失職)	54	13.7%
その他	8	2.0%
合計	394	100.0%

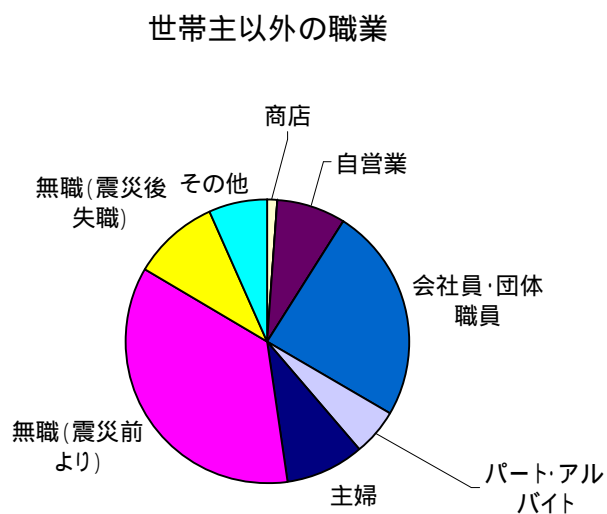


- ・震災前より無職（44.4%）、震災後に失職（13.7%）を合わせると、58.1%の方が無職となっている。
- ・有職者を見ると、漁業（16.5%）、会社員・団体職員（11.7%）、自営業（5.8%）となっている。



(5) 世帯主以外の職業

世帯主以外の職業	世帯数	割合
農業	0	0.0%
漁業	0	0.0%
商店	1	1.1%
旅館・民宿	0	0.0%
自営業	7	7.8%
公務員	0	0.0%
会社員・団体職員	22	24.4%
パート・アルバイト	5	5.6%
主婦	8	8.9%
無職(震災前より)	32	35.6%
無職(震災後失職)	9	10.0%
その他	6	6.7%
合計	90	100.0%

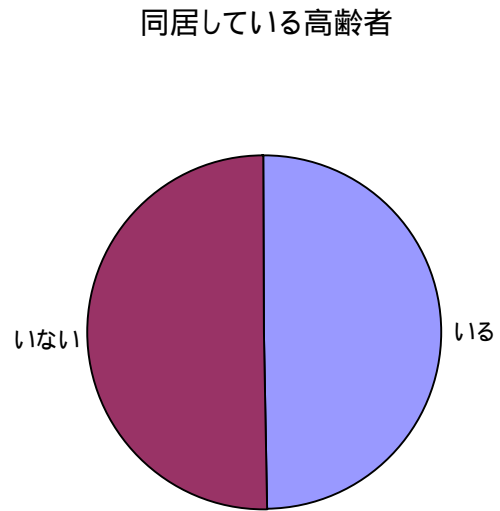


- ・世帯主以外の職業は、震災前より無職（35.6%）、震災後に職を失った（10.0%）を合わせると45.6%の方が無職となっている。
- ・有職者を見ると、会社員・団体職員（24.4%）、自営業（7.8%）、パートアルバイト（5.6%）となっている。



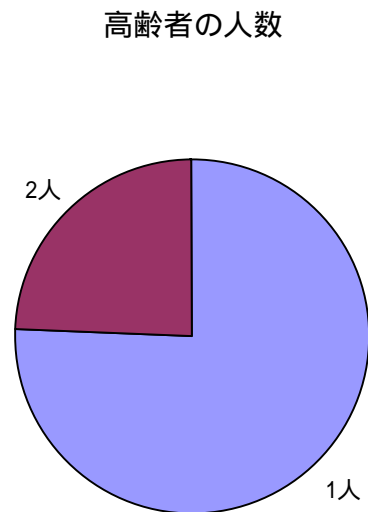
(6) 高齢者の同居

同居している高齢者	世帯数	割合
いる	198	49.6%
いない	201	50.4%
合計	399	100.0%



・世帯主の他に 65 歳以上の高齢者が同居している世帯は 49.6% になっている。

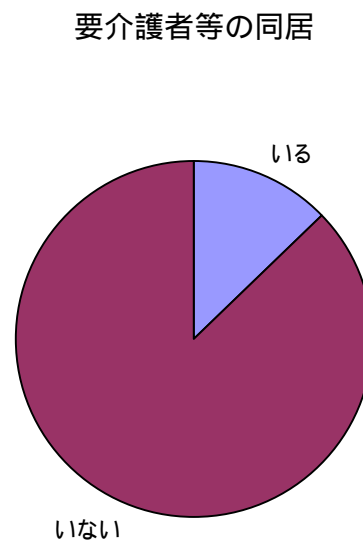
高齢者の人数	世帯数	割合
1 人	149	75.6%
2 人	48	24.4%
合計	197	100.0%



・同居している高齢者の数は 1 人 (75.6%)、2 人 (24.4%) になっている。

(7) 要介護・要支援者の同居

要介護者等の同居	世帯数	割合
いる	50	12.8%
いない	341	87.2%
合計	391	100.0%

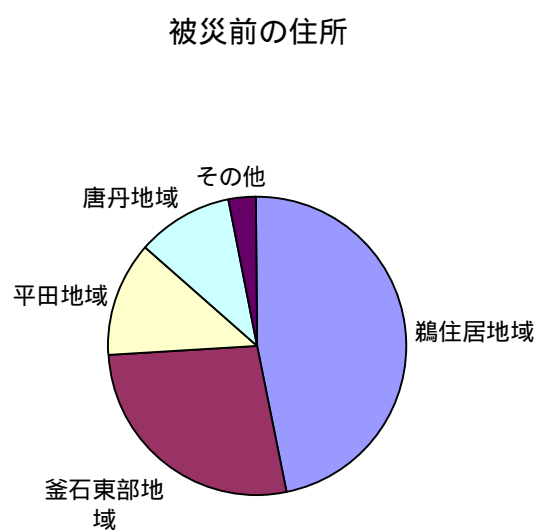


・ 12.8%の世帯に要介護、要支援者が同居している。



Q2 被災前のお住まいはどちらでしたか。

被災前の住所	世帯数	割合
室浜	8	2.0%
片岸	20	5.0%
鵜住居	99	24.6%
根浜	4	1.0%
箱崎	15	3.7%
箱崎白浜	2	0.5%
仮宿	0	0.0%
桑ノ浜	7	1.7%
両石	33	8.2%
水海	0	0.0%
鵜住居地域	188	46.8%
東部地区	66	16.4%
嬉石・松原	43	10.7%
釜石東部地域	109	27.1%
平田地区	32	8.0%
尾崎白浜	9	2.2%
佐須	9	2.2%
平田地域	50	12.4%
花露辺	8	2.0%
本郷	6	1.5%
小白浜	18	4.5%
唐丹片岸	7	1.7%
荒川	2	0.5%
大石	2	0.5%
唐丹地域	43	10.7%
大槌町	11	2.7%
大船渡市	1	0.2%
その他	12	3.0%
合計	402	100.0%

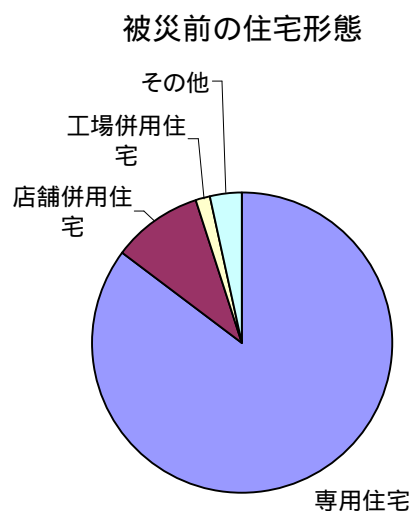


・被災前の住所を見ると、釜石市全域にわたって回答を得ることができている。



Q3 被災前の住宅形態について次の中からお選び下さい。

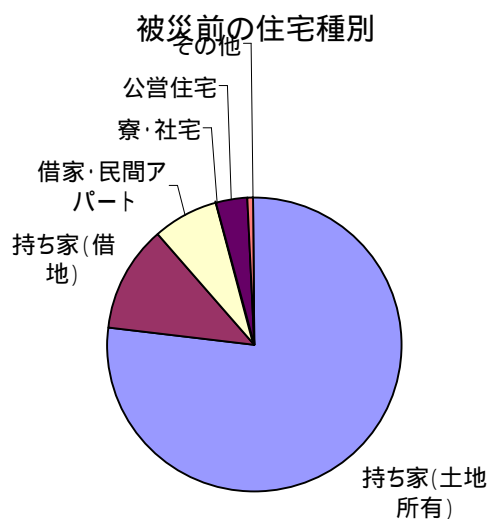
被災前の住宅形態	世帯数	割合
専用住宅	344	85.1%
店舗併用住宅	40	9.9%
工場併用住宅	6	1.5%
その他	14	3.5%
合計	404	100.0%



・被災前の住宅形態を見ると、専用住宅(85.1%)、店舗併用住宅9.9%と続き、95.0%を占めている。

Q4 被災前の住宅の所有形態を次の中からお選びください。

被災前の住宅種別	世帯数	割合
持ち家(土地所有)	310	76.7%
持ち家(借地)	48	11.9%
借家・民間アパート	29	7.2%
寮・社宅	0	0.0%
公営住宅	15	3.7%
その他	2	0.5%
合計	404	100.0%

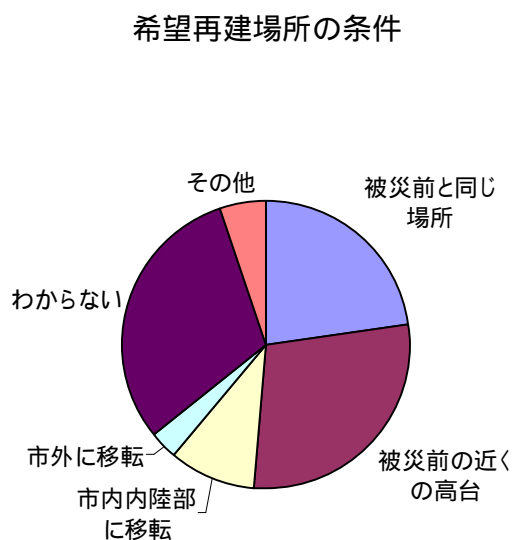


・被災前の住宅種別を見ると、持ち家(借地を含む)が88.6%となっている。



Q5 希望される住宅再建の場所を次よりお選びください。

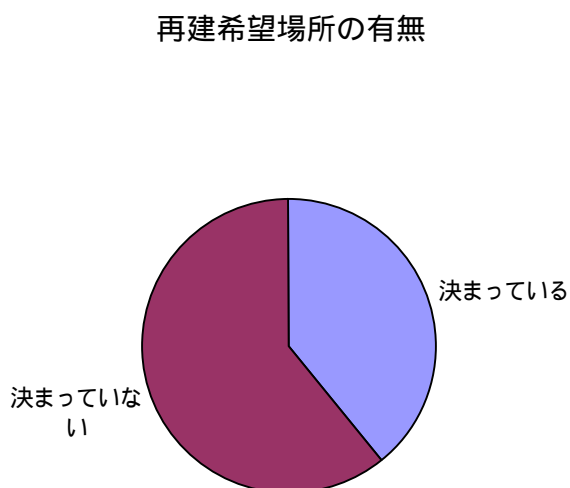
希望再建場所の条件	世帯数	割合
被災前と同じ場所	92	22.8%
被災前の近くの高台	115	28.5%
市内内陸部に移転	39	9.7%
市外に移転	13	3.2%
わからない	123	30.5%
その他	21	5.2%
合計	403	100.0%



- ・再建場所の条件を見ても、わからない(30.5%)が最も多く、被災前の近くの高台(28.5%)、被災前と同じ場所(22.8%)が続く。
- ・一方で、市内の内陸部に移転(9.7%)、市外に移転(3.2%)を条件にする世帯は12.9%ある。

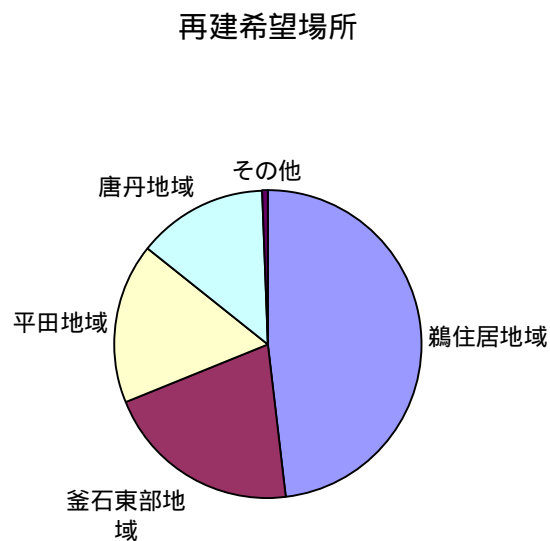
Q6 希望する住宅再建の場所が決まっていたら教えてください。

再建希望場所の有無	世帯数	割合
決まっている	158	39.1%
決まっていない	246	60.9%
合計	404	100.0%



- ・再建希望場所を見ると、決まっていない世帯が60.9%を占めている。

再建希望場所	世帯数	割合
室浜	3	2.0%
片岸	10	6.8%
鵜住居	40	27.0%
根浜	3	2.0%
箱崎	2	1.4%
箱崎白浜	0	0.0%
仮宿	0	0.0%
桑ノ浜	2	1.4%
両石	11	7.4%
水海	0	0.0%
鵜住居地域	71	48.0%
東部地区	21	14.2%
嬉石・松原	10	6.8%
釜石東部地域	31	20.9%
平田地区	15	10.1%
尾崎白浜	3	2.0%
佐須	7	4.7%
平田地域	25	16.9%
花露辺	3	2.0%
本郷	3	2.0%
小白浜	8	5.4%
唐丹片岸	3	2.0%
荒川	1	0.7%
大石	2	1.4%
唐丹地域	20	13.5%
大槌町	1	0.7%
大船渡市	0	0.0%
その他	1	0.7%
合計	148	100.0%

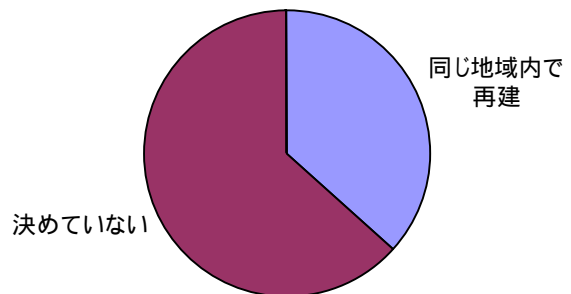


- ・再建希望場所が決まっていると答えた世帯の再建希望場所を見ると、鵜住居地域（48.0%）、釜石東部地域（20.9%）、平田地域（16.9%）、唐丹地域（13.5%）となっている。



再建場所の移動	世帯数	割合
同じ地域内で再建	148	36.6%
決めていない	256	63.4%
他地域で再建	0	0.0%
合計	404	100.0%

再建場所の移動

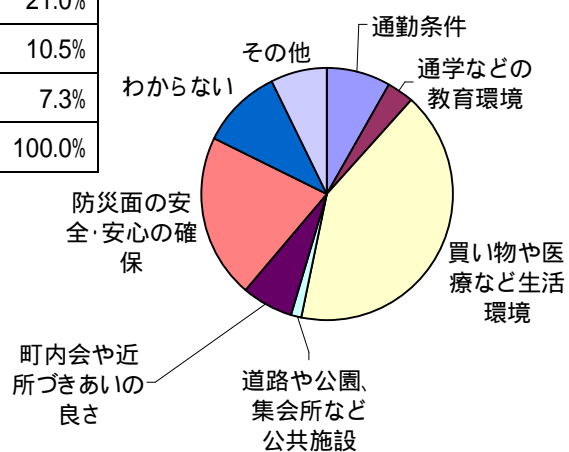


- ・再建場所の移動を見てみると、決めていないが63.4%を占めるものの、それ以外の世帯は同じ地域内での再建を希望している。

Q7 住宅再建の場所を決めるうえで重視する環境条件を次よりお選びください。

重視する環境条件	世帯数	割合
通勤条件	32	8.0%
通学などの教育環境	15	3.8%
買い物や医療など生活環境	166	41.5%
道路や公園、集会所など公共施設	6	1.5%
町内会や近所づきあいの良さ	26	6.5%
防災面の安全・安心の確保	84	21.0%
わからない	42	10.5%
その他	29	7.3%
合計	400	100.0%

重視する環境条件

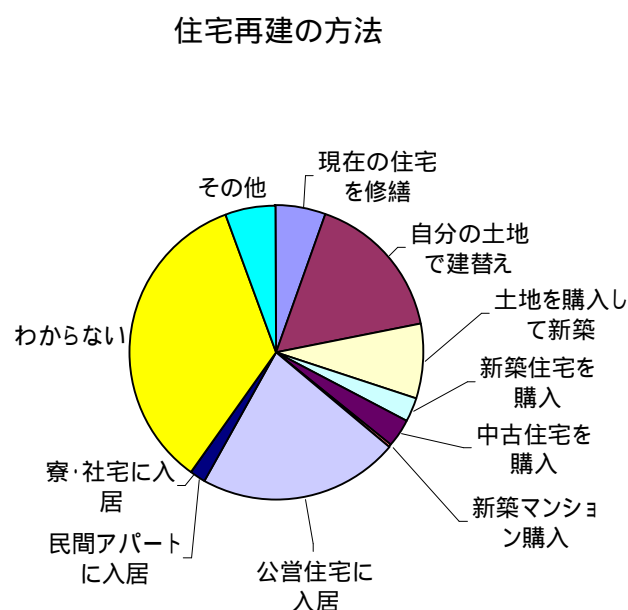


- ・重視する環境条件を見ると、買い物や医療などの生活環境（41.5%）、防災面での安全・安心確保（21.0%）、わからない（10.5%）となっている。



Q8 今、考えられている住宅再建の方法を次よりお選びください。

住宅再建の方法	世帯数	割合
現在の住宅を修繕	22	5.5%
自分の土地で建替え	65	16.3%
土地を購入して新築	32	8.0%
新築住宅を購入	12	3.0%
中古住宅を購入	12	3.0%
新築マンション購入	1	0.3%
中古マンション購入	0	0.0%
公営住宅に入居	87	21.9%
民間アパートに入居	7	1.8%
寮・社宅に入居	0	0.0%
わからない	138	34.7%
その他	22	5.5%
合計	398	100.0%

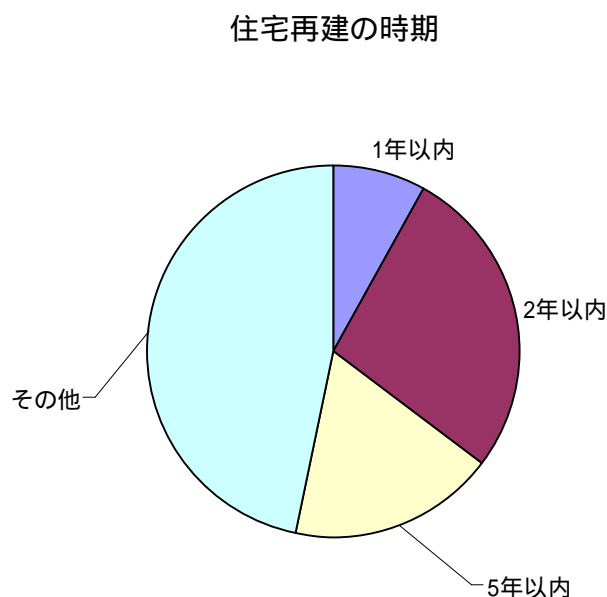


- ・生活再建の方法を見ると、わからない(34.7%)、公営住宅に入居(21.9%)、自分の土地で建替え(16.3%)となっている。
- ・現在の住宅を修繕(5.5%)、自分の土地で建替え(16.3%)、土地を購入して新築(8.0%)、新築住宅を購入(3.0%)、中古住宅を購入(3.0%)、新築マンションを購入(0.3%)などを加えた自力再建希望者は36.1%となっている。



6.1 Q9 希望する住宅再建の時期を次よりお選びください。

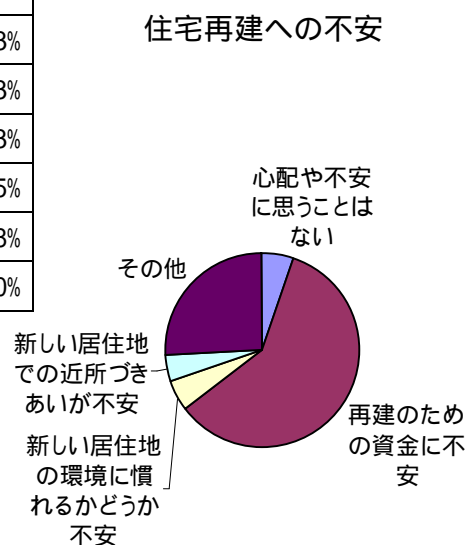
住宅再建の時期	世帯数	割合
1年以内	32	8.0%
2年以内	109	27.3%
5年以内	72	18.0%
その他	186	46.6%
合計	399	100.0%



- ・住宅再建の時期をしてみると、その他（46.6%）が最も多くなっている。
- ・一方、1年以内（8.0%）と2年以内（27.3%）を加えた2年以内の再建を考えている人は35.3%になっている。

6.2 Q10 住宅を再建するにあたって不安に思われていることを次よりお選びください。」
（ は最も不安な項目にひとつ）

住宅再建への不安	世帯数	割合
心配や不安に思うことはない	21	5.3%
再建のための資金に不安	237	59.3%
新しい居住地の環境に慣れるかどうか不安	21	5.3%
新しい居住地での近所づきあいが不安	18	4.5%
その他	103	25.8%
合計	400	100.0%



- ・住宅再建への不安をしてみると、再建のための資金に不安が59.3と最も多い。
- ・心配や不安に思うことはないは5.3%となっている。

